

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	外国語学部	英語英文	学科 専攻
派遣先大学 (国)	エトヴェシュ・ロラーンド大学 (ハンガリー)		
所属プログラム・ 学部・研究科	Faculty of Humanities		
報告書提出日	2019年2月25日		
留学予定期間	2019年2月～2019年7月		

1. 渡航について

1.1. 出発前の準備

出願料・宿舎デポジット： 314 (ユーロ) /合計

航空券代： 125000 (円) /合計

ビザ申請関連費： 510 (円) /合計

その他 ()： (通貨入力) /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

「はい」の場合、いくらの残高証明書を作成しましたか？ 40万 (円) /合計

11月初め、受入許可証が届く。(この時点ではまだ出願はしていない。)

12月初め、registrarionを含む、新学期の案内がメールで送られる。出願、寮の申請、メンター(留学生をサポートしてくれる現地の学生)の申請をした。

ビザの申請に行く。事前に電話で予約(火・木のみ)。費用・面接は無し。提出書類は申請用紙(大使館にメールで問い合わせると送っていただける)、パスポート原本、証明写真2枚、留学先の受け入れ許可証、神奈川大学からの推薦状、滞在先の証明書(寮・アパートはこの時点では決まっていないので、事前にホテルなどを7日ほど予約しその予約画面などをプリントアウト)、銀行残高証明書(通貨の指定はなかったので円で発行。自宅住所は無くても大丈夫)、奨学金受給証明書、保険加入証明書、レターパックプラス(ビザを郵送希望の場合)。大学寮などに滞在予定だったので滞在先の証明はもっていかなかったところ、申請の時に必要と言われたため、受理していただけたが後日 pdf で送った。これで1週間ほど手続きが遅れた。

12月末、航空券購入

1月中旬、寮の受け入れを拒否され、Housing Office からシェアアパートの案内が来る。メールで希望を送り、いくつかピックアップしてもらった中から選んだ。契約書にサイン(スキャンして送信)した後、家賃1か月分のデポジットを送金する。海外送金の手続きと送金後相手に届くのに時間がかかるので、振込先などを聞いたなら早めに準備をするべき。

1月末、ビザが届く。5週間以内に届くと言われていたが、年末年始を挟んだことにより思ったより時間がかかり、受け取れたのが出発の4日前になってしまった。

1.2. 渡航について

成田発ドーハ経由でブダペストへ向かった。直行便はないので乗り換えが必要。約 18 時間のフライト（乗り換え時間を除く）。アパートへは一人で向かった。空港から地下鉄の駅までバスに乗り、地下鉄で乗り換えをして最寄り駅へ。公共交通機関の切符はすべて共通なので、空港のチケット売り場で買える。700 フォリント（約 370 円）。空港からアパートまで約 1 時間。事前にアパートの入り方、部屋までの行き方、鍵の場所を知らされていたので、それを頼りに部屋に入った。

2. 到着後の手続きについて

2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

通常 2/1 が入居日だったため、1 日早く入居できたが家主と会うのは 2/1 の予定だった。だが、1 日も 2 日も来なかったため連絡すると、海外に行っていたとのことで 2/3 にお会いした。家賃 1 か月（314 ユーロ）のデポジットと最初の分の家賃（計 628 ユーロ）を払う予定だったが現金払いのみだったので後日支払った。毎月 5 日までに家賃 314 ユーロ、ガス・電気・水道代 70 ユーロ、クリーニング代 16 ユーロの計 400 ユーロを支払う。現地通貨はフォリントだが、家賃の支払いはユーロだった。

2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

日本でビザを取得して渡航した場合、到着から 30 日以内に移民局(the Immigration and Asylum Office) へ行って、ビザを滞在許可証に切り替えなければならない。必要なものは、申請用紙（大学のホームページからダウンロード可能）、パスポート、カラー写真（ビザ受け取り時に一緒にもらう、裏にハンコが押してあるもの）、滞在先の証明書（アパートの契約書など）、Accommodation reporting form、大学の在籍証明書（大学の担当者にもらう）。多くの人で混雑していたが、私は移民局に着いてから一時間ほどで手続きが終わり、その場で滞在許可証のカードを受け取れた。しかし、一緒に行った韓国人たちはビザ無しでの申請だったのでとても時間がかかっていた。また、彼女たちのようにビザなしで渡航し現地で滞在許可証を申請することもできるが 18000 フォリントの申請費がかかるので、日本でビザを取得していくことを勧める。

2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイスメントテスト等の学内手続き

2/4 オリエンテーション：学部、学科、担当教員の紹介、学生証・滞在許可証の取得方法

2/6 所属学科のイントロダクション：コースの紹介、

ハンガリー語授業の説明会：ハンガリー語の簡単な挨拶、自己紹介など

2/8 履修登録の説明会：履修登録のやり方、Neptun の使い方

2/8-15 履修登録期間

2/11 授業開始

2/12 学生証取得

3. 目標について

3.1. 留学の目的、達成目標

①英語学の学習：帰国後のゼミ、卒業論文に活かしたい。

②異文化体験（ハンガリー語の学習）：非英語圏、ヨーロッパの生活を体験したい。

③語学力向上：帰国後 TOEIC860 点取得するのが目標

3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

正直なところ、留学が決まってから出国までがとても短く、授業、課題、テストに追われ、留学資金のために週4日のアルバイトもしていたので、ハンガリー語は参考書を購入し少し勉強したが、英語の自主学習はほとんどできなかった。

3.3. 今月の学習・研修目標

英語で授業が行われるので、内容を理解できるように予習復習をきちんとする。ハンガリー語の授業が思ったよりも難しいので、自主学習をする。また、部屋に閉じこもらないで、外へ出かけて人と交流しいろいろな経験をする。

4. 学修について

4.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	
火	American Literature2(8:30-10:00)
水	Applied Linguistics Lecture(10:00-11:30), Advanced Phonology(12:00-13:30)
木	
金	American English(9:00~10:30),General Hungarian Language Course(12:00~13:30)
土	
日	

4.2. 授業について

1. American Literature2 (90分、週1コマ)

概要：19世紀末から21世紀初めにおけるアメリカ文学。modernismをテーマに学ぶ。

特徴：講義形式、受講者数が多い。以前学んだ範囲も含まれているので復習もかねて受講している。

評価方法：定期試験

2. Applied Linguistics (90分、週1コマ)

概要：応用言語学（言語習得、語学教育など）

特徴：講義形式。英語学の中でも今まで学んだことのない分野なのでとても面白い。

評価方法：定期試験

3. Advanced Phonology (90分、週1コマ)

概要：音韻論

特徴：講義形式。4人の教授がテーマごとに日替わりで講義する。Advancedとあるがそこまで難しくはない。音韻論の専門用語や基礎は知っている前提での授業。

評価方法：定期試験。セメスターの途中で小テストがあり、その得点は成績に加算される。

4. American English (90分、週1コマ)

概要：アメリカ英語とイギリス英語の違いについて、発音・スペル・語彙・文法・表現などから考える。

特徴：セミナー形式（18人）。毎回授業の始めに担当者がその回の範囲をプレゼンテーション、もしくはそのテーマに沿ったエクササイズをする。ペアワーク・発言の機会が多い。

評価方法：中間試験 30%、期末試験 30%、授業への貢献度 20%、プレゼンテーション 20%

5. General Hungarian Language Course (90分、週1コマ)

概要：初級ハンガリー語の文法・会話

特徴：少人数クラスで、留学生が主な対象。Erasmus (EU出身)ではないので、60ユーロの授業料がかかる。

4.3. 予習・復習・自習について

1. 授業進度が速いので、授業を録音したものを家で聞いてノートにメモしている。
2. 特にはしていないが、前日に前回授業のノートを見返している。
3. スライドがダウンロードできるので、それを事前に見て単語などを調べておく。
4. 次回範囲のリーディングテキストが指定されているのでそれをよく読んでおく。3/1にプレゼンテーションがあるので、その書類と原稿を作っている。
5. 渡航前に少しハンガリー語を勉強したので、complete beginner クラスではなく beginner クラスを選択したら思ったよりも難しくついていけないか不安なので、日本から持ってきた参考書で自主学习している。授業では宿題が出る。

5. 生活について

5.1. 衣食住について

住居	民間アパート（その他： ）
----	---------------

アパート周辺にパブやバーが多いので、夜、特に金・土曜日は朝まで外で騒いでいる人が多く、音楽もなっていたりしてかなりうるさい。私も夜遅くまで友達の家に行ったりバーに行ったりすることがあるので、帰る時は少し怖い。また、かなり多くの人が喫煙していて歩きたばこをしている人も多く、たばこの吸い殻がたくさん落ちている。ホームレスの人が路上や駅構内にいたり、街中には落書きも多く、日本とはかなり異なる雰囲気。

日本よりも比較的物価が安い。食パン（日本の倍の長さ）が約 60 円～、ミネラルウォーター1.5L が約 40 円～。スーパーで食材を買ってなるべく自炊しているので、かなり食費が抑えられる。ただし内陸国なので魚は高い。表記はハンガリー語で英語表記がほとんどないので携帯の辞書で調べながら買い物している。

メンターと一緒に sim カードを買いに行ったとき、担当者が英語を話せなかったのでメンターに通訳してもらった。滞在許可証を申請する前だったので、一番ギガ数の少ないものしか買えなかった。（パスポート必須）

ブダペストにはトラム・地下鉄・バスがたくさん走っているので交通の便がかなりいい。学生証を取得できれば、1セメスターのブダペストパス（通学定期）が 16200 フォリント（約 6500 円）で買える。

5.2. 課外活動について

ブダペストには観光地がたくさんあるので色々巡っている。
バーやパーティーに友達と行ったり、友達のフラットに遊びに行くことが多い。
メンターともご飯を食べたりして時々交流している。
大学主催のアイススケートに参加した。

5.3. 現在までの感想

想像はしていたが留学生のほとんどがヨーロッパ出身で、Faculty of Humanitiesには韓国人が5人ほどいたが日本人は私だけだった。街を歩いているだけでも、観光地には韓国人中国人はいるが、圧倒的マイノリティを感じた。ハンガリーがどんなところか全くわからなかったのも、どんな生活が待っているのか、友達ができるか不安だったが、日本人の友達もできたし、イギリス・イタリア・韓国などいろいろな国の人と知り合うことができた。英語を話せば多くの人と交流ができることを実感した。留学へ行って日本人ばかりとずっと一緒にいるのはよくないと言われているが、ハンガリーには日本人は少ないし、日本人の女の子とよく会うが、共通の外国人の友達とグループで過ごすことも多いので、留学先としては良い選択だったと思う。今一番の悩みは、人と会話が続かないこと。自分のリスニング力にも問題があるが、問いかけに対して同じリアクションを取りがち、会話が広がらない、何を話したらいいかわからない。日本語だったら言えるのに英語だと出てこない、ということが多くもどかしいことが何度もあった。あと、フラットメイトが皿洗いをすぐやらず、キッチンを汚しても放置するので少し困っている。また、夜の外出や夜更かしが続いて、ついに風邪をひいてしまい高熱と頭痛で寝込んでしまったので、無理はせず体調管理には気を付けなければならないと思った。

以上

神奈川県派遣交換留学生 近況報告書（4月）

所属	外国語学部	英語英文	学科 専攻
派遣先大学 (国)	エトヴェシュ・ロラード大学 (ハンガリー)		
所属プログラム・ 学部・研究科	Faculty of Humanities		
報告書提出日	2019年 4月 19日		

1. 目標について

1.1. 留学の目的、達成目標

- ①英語学の学習：帰国後のゼミ、卒業論文に活用
- ②異文化体験（ハンガリー語の学習）：非英語圏、ヨーロッパでの生活を体験
- ③語学力向上：帰国後 TOEIC860 点取得

1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

予習復習をきちんとして授業に臨むようにしていたが、だんだんやるのを忘れてしまうことも多くなった。ハンガリー語の授業では難しく他の生徒よりも遅れていると感じているので予習復習は必ず行っている。

1.3. 今月の学習・研修目標

期末テストまであと約一か月なので、日々の予習復習を欠かさずにやることと、今までの範囲も改めて復習する。

2. 学修について

2.1. 授業について

1. American Literature 2

内容：Imagism, Modernist poetry, Modernist fiction, The new negro renaissance

2. Applied Linguistics

内容：language learning, sociolinguistics, pragmatics, discourse analysis, translation

3. Advanced Phonology

内容：prosody, word stress, intonation, syllable structure

4. American English

内容：grammar, vocabulary におけるイギリス英語とアメリカ英語の違い

5. General Hungarian Language

内容：基本動詞の不定活用、物の名前、接尾辞、数字

他の生徒よりも遅れているし、授業内容も半分くらいしか理解できてないと実感していたが、最近先生の質問を一度で答えられるようになった。

2.2. 予習・復習・自習について

1. スライドが配布されないので授業中にノートに書いて、復習として授業の音声を聞きながらメモを加える。
2. スライドに目を通して単語を調べる。
3. スライド、参考文献を事前によく読む。単語を調べる。
4. 事前にリーディングテキストをしっかりと読み練習問題をやって理解しておく。
5. 宿題を欠かさずにやる。授業範囲の部分の教科書の問題をやったり、参考書を使って復習する。習った単語を覚える。

2.3. 語学力について

みんなでご飯を食べたり、映画やドラマを見たりなど、家のなかでフラットメイトと過ごす時間が増えたので、その分英語に触れる時間も増えたと思う。フラットメイトや友達がイギリス人で、またヨーロッパ出身の人はイギリス英語を話す人が多いので、日本にいた時よりもイギリス英語に慣れつつある。部屋では洋楽を聞いて歌ったり、英語のリスニングをしてなるべく英語を聞く時間を増やしている。

3. 生活について

3.1. 衣食住について

住居 (その他：)

2月の終わりに新しく中国人のフラットメイトが来た。フラットメイトは全員男性だが、みんな親切で楽しく過ごせている。

ほぼ毎日自炊をして和食、洋食とバランスよく食べているが、日本と比べて買える食材の種類が少ないし、必要な分だけ買うのが難しくて同じものを作りがち。

3.2. 課外活動について

映画のチケットが 600~750 円とかなり安く、日本にあるような大型映画館だけでなく、こじんまりとした庶民的な映画館や劇・舞台が行われる劇場でも映画が見られるので、いろいろな映画館へ行った。アメリカ・イギリス映画であればハンガリー語字幕付きで見ることができる。

3月にはプラハへ旅行に行った。今月はロンドンで一人旅をした。また、先日ブラチスラバとウィーンへ行った。

3.3. 現在までの感想

二か月半ほど他国籍の人と一緒に住んで、色んな人と多くの時間を過ごして、相手の性格などに色々戸

惑ったり、考えることが多かったが、どんな時でも自分を正当化するのではなく、許容することが重要だと感じた。ま、いっか、これはこうだからしょうがない、と深く考えすぎないようにしているからか、特に大きな問題や悩みはなく、ホームシックにもならずハンガリーでの生活を楽しめている。しかし、これまでで成長したと思えることがあまり思いつかないし、最近中弛みしつつあるので、残り半分の留学生活、気を引き締めて頑張っていきたい。

以上

神奈川県立大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	英語英文学科	3 年次
派遣先大学 (国)	エトヴェシュ・ロラード大学 (ハンガリー)			
所属プログラム・ 学部・研究科	Faculty of Humanities	履修言語	英語	
留学期間	2019年2月～2019年5月			
報告書提出日	2019年7月9日			

1. 学修について

1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録までの過程
Spring semester	2月11日 ～5月17日 (14週)	5月20日 ～7月5日	2月4日から学部・学科ごとのオリエンテーションが始まった。8日に Neptune (神奈川県立大学でいう Webstation) の使い方を学び、履修登録を始めた。履修できるかどうかは先着順で決まるので、留学生のほとんどが定員の多い講義系授業を受講する。15日まで履修登録の変更を行える。ネットで履修登録ができれば、履修希望用紙に各授業の担当教授からサインをもらって、それをコーディネーターに提出する。

1.2. 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
		(内訳)	
Spring semester	American English	16.5 時間	演習が金曜日に 90 分。アメリカ英語をイギリス英語と比較しながら、文法・単語・語彙・スペル・発音などの違いを学ぶ。毎回担当者がその日の授業範囲のプレゼンテーションを行い、担当者によって作られた演習問題をペアになって解く。中間試験と期末試験があり、対策としてはそれぞれ授業範囲の復習や演習問題の解きなおしをした。
		1.5(時間/回)	
		× 1(回/週) × 11(週)	

Spring semester	Applied Linguistics	16.5 時間	講義が水曜日に 90 分。言語習得、第二言語習得、言語伝達能力などを主に扱う。定期試験対策は、最終授業日に教授から試験範囲のまとめプリントが配布されたので、そこに書かれていた問題やキーワードを復習した。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 11(週)	
Spring semester	General Hungarian Language	15 時間	演習が金曜日に 90 分。食べ物や身の回りの物などの単語や、簡単な動詞・形容詞、目的格、複数形、数字、簡単な日常会話を学ぶ。教科書やプリントの演習問題をペアワークで解く。小テスト（成績に反映されない）が数回あったが、期末試験はなかった。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 10(週)	
Spring semester	Advanced Phonology	16.5 時間	講義が水曜日に 90 分。音韻論の発展的なものとして、強勢、イントネーション、母音、子音、音節などを扱う。筆記の小テストが 1 回あった。定期試験前はスライドをもとに重要箇所を見直したりキーワードを覚えた。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 11(週)	
Spring semester	American Literature	19.5 時間	講義が火曜日に 90 分。19 世紀後半～20 世紀初頭（モダニズム時代）に活躍した作者とその作品について時代背景と共に学ぶ。試験前はノートをもとめたり、小説や物語を読んで理解を深めた。
		1.5(時間/回) × 1(回/週) × 13(週)	

1.3. 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

わからない単語が授業中やスライドの中にもたくさん出てくるので、とにかく単語の意味を調べて理解することが主な予習復習のやり方だった。スライドがインターネットで見られる場合は、授業中はノートをほとんど取らず教授の話聞くことに集中した。

1.4. 語学力について

講義系の授業がほとんどだったので、授業で英語力が上がったとはあまり思わなかった。それよりも、フラットメイトや友達との日々の会話でリスニング力が伸びたと思う。日常会話の英語のレパートリーが増え、色々な表現を知ることができた。彼らと一緒に映画や海外ドラマ、Youtube を見ることも多かった。ドラマや動画を見るときは音声・字幕共に英語で見ている。座学で英語を勉強することはほとんどなく、人と時間を共に過ごすことで英語を聞く・話す時間を増やした。

2. 留学の成果を振り返って

2.1. 学修の成果

イギリス英語が広く使われているので、Advanced Phonology と American English では授業を通して特にイギリス英語の理解が深まった。Advanced Phonology は今まで神奈川大学の音韻論の授業で学んだことを活かして、さらに発展的なものを学べたのでとても勉強になった。ハンガリー語の授業では、

簡単な文法・会話のみだったが、買い物など日頃の生活に役立った。またハンガリーの文化をより知ることができた。発音が難しかったのであまり習得できなかったが、受講していて楽しかった。他にも Applied Linguistics など、神奈川大学の授業にはないものを多く受講できたので、ここでしか学べないものを学ぶことができたと思っている。

2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

アメリカ文学の授業では、授業中に作者や作品の細かい説明がなかったので、各自でその作者の小説や詩を読んでおかなければならなかった。しかし試験範囲の作者・作品の数がとても多く、試験対策が十分ではなかったので単位を落としてしまったのが一番の反省点です。また、日が経つにつれて気が緩み、予習復習に割く時間が短くなっていたので、勉強よりも友達と出かけたりしている時間の方が多くなってしまった。

授業によっては試験範囲を復習するだけでパスできるものもあるが、文学の授業はかなりの自主学習が必要になることを理解してほしいです。友達ができるとつい遊びに出かけることが多くなるので、勉強の時間はしっかり確保しておくことが大切。

留学生は定期試験後の成績が出た後に、自分で成績表を作成して各授業の担当教授にサインをもらう必要がある。試験 2 日後くらいに試験の結果と共に成績をネットで見ることができる。帰国までに成績表を完成させコーディネーターに提出しなければならないが、最終試験日から一週間以内にこれを終えるのはかなり厳しい。(私は帰るまでに間に合わなかったので、一度帰国してから行ったスペイン旅行の後、またハンガリーに戻った時に提出した。)

2.3. 留学生活で得られたもの

色々な人と仲良くなれた。特にフラットメイトは家族のような存在だった。また、他の友達も国籍・年齢はバラバラだが、どんなことでも気軽に話せて、私のつたない英語を普通に聞いてくれたので、英語を話すことへの恐怖心や羞恥心なく会話を楽しめた。彼らのおかげで自分に自信を持てるようもなった。また、文化が違えば、考えていることや物の捉え方も全く違うということを知った。物事を気楽に、より楽観的に考えるようになった。そして、ヨーロッパの生活・文化を自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることができた。友達の話の聞いたり国内外に旅行に行くことによって、ハンガリーだけでなく色々な国の文化を知ることができた。郷土料理も含め、様々な料理・食べ物を食べたり、建造物を見たりして、日本ではできないことを経験できた。海外への興味関心がより増した。自炊することが多かったので料理のレパートリーが増えた。

2.4. 留學生活での反省点ならびに留學志望者へ生活面のアドバイス

留學当初ははやく友達と仲良くなりたと思うことが多く、週末は友達とバーや友達の家に行ったりして毎朝方まで起きていたので、生活習慣は乱れ体調を崩し、しまいには熱を出してしまった。特にヨーロッパは夜型の人が多いので、慣れないうちは彼らと遊ぶのもほどほどにしたほうがよい。無理は禁物。場所にもよるが、週末は飲み屋街などがすごくにぎわっていて酔っ払いが通りに多くいるので、友達やフラットメイトと帰ったりしてなるべく一人歩きは避ける。

ブダペストは夏は暑く（5月下旬～6月頃から30度を超える）、冬は寒い（だが2月に雪は降らなかった）。また、春は朝晩と昼の寒暖差が大きいので、体調管理・服装に気を付ける。

住居は絶対シェアアパートがおすすめ。一緒に住むことでより仲良くなれるし、いつでもどんなことでも会話できる。住居を決めるときは、立地、周辺環境、家賃、広さ、共有スペース（バストイレなど）、個室など色々な点から考えるべき。ちなみに、ハンガリーでは若者がアパートをシェアして住むのは一般的。

食生活に関しては、キッチンがあるなら少しでも自炊をするべき。日本よりもレストランのレパトリーが少ないので外食に飽きやすくなる。物価が安いのでレストランへ行っても安く済ませることができるが、自炊をすれば食費をもっと節約できる。軽食はマックより路面店のピザのほうが安い（1ピース約150円～）。

週末やまとまった休みがある時は、家にいないで出かけるか旅行をして休日を満喫するべき。飛行機だけでなくバスや列車でも外国に行けるので、ヨーロッパに留學したら他国に行って色々経験するとよい。大人数（4人以上）での旅行は事前にしっかり計画していないとグダグダの旅行になる可能性が高い。ブダペストには観光名所がたくさんあるのでそこを訪れるのもよい。

派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2019年6月23日

所 属	外国語学部 () 研究科	英語英文学科・専攻	3 年次
派遣先大学	エトヴェシュ・ロラント大学		4 ヶ月間

I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
2	住居形態の詳細を教えてください。	(イギリス人、オランダ人、中国人の3人とアパートをシェア。各自自分の部屋がある。4LDK。3階(日本だと4階にあたる)。)
3	入居時手続き	(Housing Officeにデポジットを送金。アパート到着後自分で鍵を取って中にはいる。後日大家にもデポジットを支払う。)
4	費用(月額)	400(ユーロ)(食費含まない/月)
5	支払方法	現金払い
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input checked="" type="checkbox"/> 浴槽 <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> 乾燥機 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (テレビ)
7	住居選択方法	<input checked="" type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ()
8	周囲環境	(向かいに大型スーパーあり。100mくらいのところに24時間営業のコンビニ。徒歩10分圏内に飲食店・バーが多い。地下鉄からは徒歩5分強、トラムからは徒歩3分ほど。)
9	アクセス	(大学まで徒歩15分)
10	留学中の住居に関して アドバイス	(周辺の治安、環境などを調べてから決めるべき。学部によってキャンパスが異なるのでそれも把握しておくこと。大学寮のが家賃は安い、数が少ないので入れないことが多い。)
11	引越された方は引越し先の住居形態を記入ください。	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ()
12	詳細を教えてください	()

II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	(携帯会社に行きSIMカード(1GB約1000フォリント)を購入。購入時パスポートが必要。その後、ネットで3.5GB(3550フォリント)を追加購入。)
4	自宅のインターネット接続環境	無線(大学または寮へのLAN接続)
5	大学内インターネット接続環境	使用しなかった

III. 留学費用について

諸経費(1ヶ月の平均)		
1	宿舍費	400 (ユーロ) /月
2	食費	30000 (フォリント) /月
3	交通費	2000 (フォリント) /月
4	通信費	() /月
5	娯楽費	40000 (フォリント) /月
6	図書費	() /合計
7	学用品(教科書など)	100 (フォリント) /合計
8	被服費	3000 (フォリント) /合計
9	医療費	() /合計
10	雑費・その他	() /合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳(留学準備期間含む)		
11	出願料・宿舍デポジット	628 (ユーロ) /合計
12	ビザ申請関連費	510 (円) /合計
13	航空券代 (休暇時旅行費用は除く)	126000 (円) /往復
14	その他	() /合計
15	留学全日程に要した総額(概算)	約70万 (円) /合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金(渡航時:1万円) <input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード(銀行名:三井住友銀行) <input type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他 ()	

17	現地で銀行口座開設	してない
18	お金に関するアドバイス	普段はカードをタッチするだけで決済できるデビットカードで支払いしていた。PIN コードを入力する手間が省けるのでとても便利。ただ、友達と外食したり割り勘するときに現金があるといいので、少しは財布に入れておくべき。現地の ATM で簡単にお金が引き落としできる（手数料 1 回 108 円）ので、両替する必要はないと思う。

IV. 保険・医療について

1	海外旅行（留学）保険の種類	C18 (6 か月分で 60210 円)
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか？	いいえ
3	日本から持参した方が良かったと思う薬などがありますか？理由はなんですか？	風邪をひいたとき薬を飲み切ってしまったので風邪薬は多めに。あと、顔や足にぶつぶつができたときがあったので、それを抑える塗り薬。

V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの
	ダウン、上着、服（上 6 着、下 3 着）、下着（1 週間分）、ヒートテック、部屋着、ブーツ、スニーカー、ビーチサンダル、クロックス、洗濯かご、洗濯ピンチ、洗濯ネット、化粧品、基礎化粧品、お茶パック、お菓子、箸、計量スプーン、計量カップ、筆記用具、ノート、ファイル、折りたたみ傘
2	現地で購入したもの
	コート、服（5～6 着）、靴
3	（自分は持っていかなかったが）日本から持っていったら便利だと思ったもの
	醤油

VI. 留学先で困ったこと

スーパーの品物はハンガリー語表記ばかり。（他のヨーロッパ言語も記載されていることもあるが、英語はほとんど書かれていない。）魚介類は冷凍品のみしか売ってない、しかもかなり高い。野菜・果物の質があまりよくない。たばこの吸い殻や落書き、ごみなどで町が少し汚いイメージ。ホームレスやジプシーの人もよくいる。英語を話せない人も普通にいます。

VII. その他、後続の学生へのアドバイス

どの国に留学しても言えることだが、人も物も生活スタイルもすべてが日本と異なると思っていたほうがいい。異文化を楽しむ気持ちも持って生活していれば、あまり悩むことはない。ブダペストには他のヨーロッパの国からたくさんの観光客・留学生が集まっているので、色々な国の人と出会って彼らとわいわい過ごしたい人や、週末には朝方まで賑わっているバーやパブも充実しているので、ナイトライフも楽しみたい人にはおすすめ。